

中華人民共和国の中等地理教育における自然災害に関する学習内容の分析（1）： 義務教育中学「地理」課程標準及び準拠版教科書（ 第7学年）を事例として

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-10-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 王, 禹軻, 佐藤, 克士 メールアドレス: 所属:
URL	https://mu.repo.nii.ac.jp/records/1912

中華人民共和国の中等地理教育における 自然災害に関する学習内容の分析（1）

－義務教育中学「地理」課程標準及び
準拠版教科書（第7学年）を事例として－

An Analysis of Learning Content on Natural Disasters in
Secondary Geography Education in China I :
A Case Study of Compulsory Secondary Education Course Standards in Geography
Using a 7th Grade Textbook

王 禹 軻*

WANG Yuke

佐 藤 克 士**

SATO Katsushi

キーワード：中華人民共和国，中等地理教育，自然災害，課程標準，教科書分析

I. はじめに

中華人民共和国（以下、中国）の中等地理教育において、自然災害に関する学習はどのように展開されているのだろうか、というのが筆者らの問題意識である。本研究に先立ち、筆者らは近年の中国の初等教育段階における自然災害に関する学習内容の特質（課題を含む）について、「科学」及び「品德と社会（生活）」を対象に、課程標準¹⁾及び準拠版教科書を事例に明らかにしてきた（王・佐藤，2022；佐藤・王，2022）。分析の結果、「科学」に関して、課程標準では、「物質科学」、「生命科学」、「地球と宇宙科学」、「技術と工学」の4領域のうち「地球と宇宙科学」に自然災害に関わる学習内容が位置づけられており、それに対応した準拠版教科書の単元では、主な学習内容として、雨や風がもたらす影響やその危険性、地震や侵食等の自然災害のメカニズムを理解させる構成となっていた。一方、「品德と社会（生活）」に関して、課程標準では、第3～6学年を対象とした「品德と社会」においては「私の健康的な成長」、「私の家庭生活」、「私の学校生活」、「地域社会における生活」、「国家」、「私たちの世界」の6領域のうち、「国家」に自然災害に関する学習内容が位置づけられており、それに対応した準拠版教科書の単元では、主な学習内容として、中国国内で発生した自然災害の種類と分布状況、被害状況、自然災害の発生要因、自然災害発生時の適切な避難行動、自然災害による被害を軽減するための取り組み等の事実認識を通して、自然災害に懸命に立ち向かう人々の行為や努力に共感するとともに、その背後にある道徳的価値（団結、協力、諦めない気持ち等）の重要性に気づかせる構成となっていた。

上記の研究成果を踏まえて、本稿では、分析の対象を中等教育段階に拡大し、その特質を明らかにしていく。具体的には、義務教育中学「地理」課程標準（以下、「地理」課程標準）及び準

* 武蔵野大学教育学研究科 院生 ** 武蔵野大学教育学部

拋版教科書(第7学年)を事例に学習内容の特質を明らかにしていく。分析対象の教科として「地理」を選定する理由は二つある。第一に、義務教育中学課程標準において自然災害に関する学習内容が位置づけられている教科が「地理」のみだからである。そして第二に、数ある中国の地理教育を分析した先行研究において、中国において自然災害に関する学習がどのように展開されているのかについて明らかにされていないからである。例えば、近年の中国における地理教育を対象としたものに、呂(2018)、南(2019)、赫連・桑原(2021)、傅(2019)、郭(2015)、季・池(2015)らの研究が挙げられる。呂(2018)と傅(2019)の研究では、中国における初等中等社会系教科(地理教育)のカリキュラムの特質について明らかにしている。具体的に呂(2018)では、国家の歴史的な変遷に伴い、独自の形態で展開してきた中国の社会系教科(「道徳と法治」・「品徳と社会」)の教育原理、内容構造、特質を明らかにしている。傅(2019)では、日本の2018年版高等学校学習指導要領(地理歴史編)と中国の2017年版普通高校地理課程標準を比較・検討することを通して、両国の高等学校段階における地理教育カリキュラムの異同を明らかにしている。他方、南(2019)、赫連・桑原(2021)、郭(2015)、季・池(2015)の研究では、中国の学校教育で使用されている教科書を分析対象として、その特質を明らかにしている。具体的に南(2019)は、中学校地理教科書を事例に「日本」に関する記述が量的・質的にどのように変化してきたかを、赫連・桑原(2021)は、中学校地理及び歴史教科書を事例に多文化共生の視点がどの程度組み込まれているのかを、郭(2015)は、高等学校地理教科書を事例にESDの視点がどの程度組み込まれているのかを、季・池(2015)は、高等学校地理教科書を事例に「観光」に関する学習内容がどのように取り上げられているのかを、それぞれ明らかにしている。上記の通り、先行研究では、中国の中学校・高等学校段階で使用されている教科書を事例に分析した成果の蓄積が確認されるが、その成果に関して、本稿で掲げている自然災害に関する内容は管見の限り確認することができない。以上、二つの理由を踏まえ、中国の中等地理教育において、自然災害に関する学習がどのように展開されているのか、「地理」課程標準及び準拠版教科書(第7学年)を事例に明らかにしていく。

Ⅱ. 「地理」課程標準における学習目標・内容

「地理」課程標準(中華人民共和国教育部, 2011)では、「地球と地図」、「世界地理」、「中国地理」、「郷土地理」の4領域でカリキュラムが編成されている。これら4領域の学習目標・内容を整理したのが、第1表である。

第1表 「地理」課程標準における学習内容の構成

※自然災害に関する内容は網掛け

領域	項目	学習目標・内容
一・地球と地図	(一) 地球と地球儀	<p>1. 地球の形状と運動</p> <p>①人間が地球の形を理解する過程を知る。 ②平均半径、赤道周囲、表面積で地球の大きさを記述する。 ③簡単な方法で地球の自転と公転を実演する。 ④地球の自転と公転の仕組みを記述する。</p> <p>2. 地球儀</p> <p>①地球儀を使い、経線と緯線、経度と緯度の区切りについて知る。 ②地球儀を用いてある地点の緯度と経度を確認する。</p>
	(二) 地図	<p>①地図上で方向、緯度及び経度を判読して距離を計る。 ②等高線地図で嶺、尾根、谷を識別したり、勾配の緩さを判読したり、標高と相対高度を見積もったりする。 ③地形図上で5つの主要な地形類型を識別する。 ④必要によってよく使う地図を選び、必要な地理情報を調べ、日常生活で地図を使う習慣を身につける。 ⑤電子地図やリモートセンシング画像などの生産・生活への応用の実例を列挙する。</p>
二・世界地理	(一) 海洋と陸地	<p>1. 海陸分布</p> <p>①地図と資料を用いて、地球の表面に海と陸が占める割合を述べたり、海陸分布の特徴について説明したりする。 ②世界図を用いて、七大陸、四大洋の分布を明らかにする。</p> <p>2. 海陸変遷</p> <p>①地球の表面は、海と陸が絶えず動き、変化していることを知る。 ②プレートテクトニクスの基本的な考え方を理解し、世界的に有名な山系や火山、地震の分布と地殻プレートの運動との関係について説明する。【a】</p>
	(二) 気候	<p>1. 天気</p> <p>①天気と気候の概念を区別し、正しく用いることができる。 ②よく使われる天気記号を識別し、簡単な天気図を見て説明する。 ③人間活動が大気に与える影響について理解し、実例をもとに説明する。</p> <p>2. 気温と降水の分布</p> <p>①世界の年平均と1月、7月の平均気温分布図を読み取り、世界の気温分布の特徴を要約する。 ②世界の年間降水量分布図を読み、世界の降水分布の特徴を要約する。 ③気温と降水量の資料を用いて、気温のグラフと降水量の棒グラフを作成し、気温と降水量の時間変化の特徴を記述する。</p> <p>3. 主な気候の型</p> <p>①世界の気候類型分布図を用いて主要な気候類型の分布を記述する。 ②緯度位置、海陸分布、地形などが気候に与える影響を例示する。 ③気候が生産や生活に与える影響を例示する。</p>
	(三) 移民	<p>1. 人口と人種</p> <p>①地図と他の資料を用いて、世界の人口増加と分布の特徴を要約する。 ②人口が多すぎることが環境や社会、経済に与える影響を例示する。 ③世界三大人種の特徴を述べ、地図上で三大人種の主な分布地域を示す。</p> <p>2. 言語と宗教</p> <p>①地図を用いて、中国語、英語、フランス語、ロシア語、スペイン語、アラビア語の主要な分布地域を説明する。 ②世界三大宗教とその主な分布地域を説明する。</p> <p>3. 集落</p> <p>①写真を使って都市と田舎の風景の違いを記述する。 ②集落と自然環境の関係を記述する。 ③世界文化遺産を保護する意味を理解する。</p>

	<p>(四) 展 地域 差 発 差</p>	<p>①実例を通じて、地域によって発展レベルに差があることを理解する。 ②途上国と先進国の分布の特徴を地図で整理する。 ③実例を用いて国際経済協力の強化の重要性を記述する。</p>
	<p>(五) 地 域 の 認 識</p>	<p>1. 五大州の認識 ①地図などの資料を用いて、ある大陸の緯度位置と海陸の位置を簡単に説明する。 ②地図とほかの資料を用いて、ある大陸の地形、気候、水系の特徴を要約し、その相互関係を簡単に分析する。</p> <p>2. 地区の認識 ①地図上である地域の位置、範囲、主要な国とその首都を探し出し、図を読んでその地域の地理的特性を記述する。 ②地形図や地形断面図を用いて、ある地域の地勢や地形の特徴を要約し、地形とその地域の人間活動との関係を記述する。 ③グラフを用いて、ある地域の気候の特徴と、その地域の農業生産や生活に及ぼす影響を記述する。 ④地形図を用いて、ある地域の河川が都市の分布に与える影響を記述する。 ⑤地図やその他の資料を用いて、ある地域がその地域や世界の経済発展に大きな影響を及ぼす天然資源の一つやいくつかを示し、その分布、生産、輸出などの状況を記述する。 ⑥ある地域の観光事業の強みについて例を挙げながら説明する。 ⑦資料を用いてある地域の地理的特色が富んだ文化慣習を説明する。 ⑧南、北極地域の自然環境の特殊性を述べ、極地の科学的考察と極地の環境を保護する重要性を理解する。</p> <p>3. 国家の認識 ①地図上に国の地理的位置、領土構成、首都を示す。 ②地図とほかの資料に基づいてその国の自然環境の基本的特徴を要約する。【b】 ③地図やその他の資料を使用し、特定の国の自然条件の特性に関連し、簡単にその国の経済発展の状況を分析する。 ④ある国の経済発展に対するハイテク産業の役割について実例をもとに記述する。 ⑤ある国の天然資源開発や環境保護に関する経験や教訓の例を説明する。 ⑥地図に基づいてある国の交通・輸送ルートの分布の特徴を要約する。 ⑦ある国の人種や人口（あるいは民族、宗教、言語）等の人文地理的な要素の特徴を、地図やその他の資料から明らかにする。 ⑧例を用いてある国の自然環境が民俗に与える影響を記述する。 ⑨ある国と他の国との経済的、貿易的、文化的なつながりを記述する。</p>
<p>三、中国地理</p>	<p>(一) 国 土 と 人 口</p>	<p>1. 国土と行政区画 ①地図を用いて我が国の地理位置とその特徴を説明する。 ②我が国の領土面積を記憶し、隣国とその周辺の海を地図で示し、我が国が陸地大国であると同時に海洋大国でもあることを理解する。 ③中国の行政区画図上における34の省級行政区画単位を正確に探し出し、それらの略称と行政センターの特徴について理解する。</p> <p>2. 人口と民族 ①関連資料を用いて我が国の人口増加傾向を記述し、我が国の人口国策を理解する。 ②中国の人口分布図を用いて我が国の人口分布の特徴を記述する。 ③中国の民族分布図を用いて我が国の民族分布の特徴を明らかにする。</p>
	<p>(二) 自 然 環 境 と 天 然 資 源</p>	<p>1. 自然環境 ①中国の地形図を用いて我が国の地形・地勢の主要な特徴を要約する。 ②資料を運用し、我が国の気候の主な特徴及び我が国の気候に影響する主な原因を説明する。 ③地図の上で我が国の主要な河川を探し出し、我が国の外流河川・内流河川の分布の特徴を要約する。 ④地図と資料を用いて、長江、黄河の主要な水文的特徴と社会経済発展への影響を説明する。 ⑤我が国は自然災害が頻繁に発生する国であることを理解する。【c】</p> <p>2. 自然資源 ①再生可能資源と非再生可能資源の違いを説明する。 ②資料を用いて、我が国の中国の天然資源の主な特徴を述べたり、国策について理解したりする。</p>

		<p>③資料を用いて、我が国の水資源の時空間分布の特徴と社会経済発展への影響を明らかにする。</p> <p>④事例を総合し、我が国が流域を越えて水を調節する必要性を説明する。</p>
	(三) 経済と文化	<p>1. 経済発展</p> <p>①資料を用いて、我が国の農業分布の特徴を記述したり、地域に応じた農業の発展の必要性と農業における科学技術の重要性について理解したりする。</p> <p>②資料を用いて我が国の工業分布の特徴を述べたり、我が国のハイテク産業の発展状況を理解したりする。</p> <p>③異なる交通輸送方法の特徴を比較し、適切な交通輸送方法を選択する。</p> <p>④地図を用いて我が国の幹線鉄道の分布図を明らかにする。</p> <p>2. 文化特色</p> <p>①自然環境が我が国の特色ある服飾、飲食、民家などに与える影響の例を記述する。</p> <p>②関連資料と組み合わせ、観光産業の発展が中国の地方文化の特性に与える影響を記述する。</p>
	(四) 地域別	<p>①地図の上で秦嶺、淮河を探し出し、「秦嶺—淮河」線の地理的意義を記述する。</p> <p>②地図上で北方地区、南方地区、西北地区、青蔵地区の四大地理単位の範囲を指摘し、それらの自然地理的差別を比較する。</p> <p>③事例を用いて四大地理単位自然地理環境が生産・生活に与える影響を記述する。</p>
	(五) 地域の認識	<p>1. 位置と分布</p> <p>①地図を使って地域の地理的位置を簡単に評価する。</p> <p>②地形図上にある地域の主な地形類型を識別し、地域の地形的特徴を説明する。</p> <p>③地図と気候統計グラフを用いて、ある地域の気候の特徴を要約する。</p> <p>④地図や資料を使い、地域の産業構造や立地の特徴を記述する。</p> <p>⑤地図などを使い、ある地域の人口や都市の分布を要約する。</p> <p>2. 繋がりや差異</p> <p>①地域内の自然地理的要素の相互作用と相互影響を例示する。</p> <p>②地域発展における河川の役割を例に挙げて説明する。</p> <p>③資料を用いて地域内の主な地理的差異を比較する。</p> <p>④地域間連携が地域経済の発展にもたらす意味を例に挙げて説明する。</p> <p>⑤母国内地と香港、マカオの経済発展の相互促進作用を例に挙げて説明する。</p> <p>⑥関連資料を用いて、ある地域の発展に対する外向型経済の影響を分析し、記述する。</p> <p>3. 環境と発展</p> <p>①資料に基づき、ある地域内に存在する自然災害と環境問題を分析し、地域の環境保護と資源開発利用の成功体験を理解する。【d】</p> <p>②ある地域を例に、地域の発展がライフスタイルや生活の品質に与える影響を記述する。</p> <p>③資料を用いて、首都北京の自然地理的特徴、歴史文化伝統、都市機能を記述し、都市建設の成果を記述する。</p> <p>④台湾省は古来よりずっと母国の切り離せない神聖な領土であることを認識する。また地図上で台湾省の位置と範囲を指摘し、その自然地理環境と経済発展の特色を分析する。</p> <p>⑤ある地域を例にして中国の西部の開発の地理的条件と生態環境を保護する重要性を記述する。</p>
四：郷土地理	(一) 故郷の変化	<p>①地図を用いて、故郷の地理的位置を記述し、その特徴を分析する。</p> <p>②図と文の材料を利用して故郷の主な地理的事物の変遷とその原因を記述する。</p> <p>③自然資源、自然災害が故郷の社会、経済などの面に与える影響の例を分析する。【e】</p> <p>④故郷の人口資料を用いて全国の人口状況と比較し、故郷の人口数と人口変化の特徴を説明する。</p>
	(二) 故郷の発展	<p>①故郷の対外連携の現状や故郷の一層の改革の重要性について理解する。</p> <p>②故郷の発展計画を理解するとともに、未来展望に注目し、故郷建設の志を立てる。</p>

(中華人民共和国教育部, 2011 をもとに筆者作成)

1. 「地球と地図」領域

第1表の通り、「地球と地図」領域では、「地球と地球儀」と「地図」の2つの項目で構成されている。具体的に、「地球と地球儀」では、「地球の形状と運動」と「地球儀」に関して、人間が地球の形を理解する過程、地球の大きさ、地球の自転と公転、地球儀の使い方等について学習することが示されている。また「地図」に関しては、地図上で方向、緯度及び経度を判読して距離を計ったり、よく使用する地図をもとに必要な地理情報を調べたりすること等が示されている。

2. 「世界地理」領域

「世界地理」領域では、「海洋と陸地」、「気候」、「移民」、「地域発展の差」、「地域の認識」の5つの項目で構成されている。具体的に、「海洋と陸地」では、「海陸分布」と「海陸変遷」に関して、世界地図を用いて七大陸や四大洋の分布を明らかにしたり、世界的に有名な山系や火山及び地震の分布、地殻プレートの運動との関係等について説明したりする学習が示されている。また、「気候」では、「天気」、「気温と降水の分布」、「主な気候の型」に関して、天気と気候の概念を区別すること、世界の気温分布の特徴、世界の主要な気候類型の分布等について学習することが示されている。次に、「移民」では、「人口と人種」、「言語と宗教」、「集落」に関して、世界の人口増加と分布の特徴、言語及び世界三大宗教とその主な分布地域、都市と田舎の風景の違い等について学習することが示されている。さらに、「地域発展の差」では、国際経済協力の強化の重要性等について学習することが示されている。最後に、「地域の認識」では、「五大州の認識」、「地区の認識」、「国家の認識」に関して、大陸の緯度位置と海陸の位置、ある首都の地理的特性や地形及びその地域の人間活動との関係、ある国の交通や輸送ルートの分布や自然環境が民俗に与える影響等について学習することが示されている。

3. 「中国地理」領域

「中国地理」領域では、「国土と人口」、「自然環境と天然資源」、「経済と文化」、「地域差」、「地域の認識」の5つの項目で構成されている。具体的に、「国土と人口」では、「国土と行政区画」、「人口と民族」に関して、中国の地理的位置とその特徴、人口分布及び民族分布とその特徴等について学習することが示されている。また、「自然環境と天然資源」では、「自然環境」、「天然資源」に関して、中国の気候の特徴や気候に影響する主な原因、中国の天然資源の主な特徴と国策等について学習することが示されている。次に、「経済と文化」では、「経済発展」、「文化特色」に関して、中国の農業分布や工業分布の特徴とその要因、自然環境が中国の特色ある服飾、飲食、民家などに与える影響等について学習することが示されている。さらに「地域差別」では、北方地区、南方地区、西北地区、青蔵地区の四大地理単位の範囲や地理的環境が生産・生活に与える影響等について学習することが示されている。最後に、「地域の認識」では、「位置と分布」、「繋がりと差異」、「環境と発展」に関して、ある地域の気候の特徴や産業構造及び立地の特徴とその分布、地域内の自然地理的要素の相互作用とその影響、地域内の主な地理的差異や地域間連携が地域経済の発展にもたらす意味、ある地域内に存在する自然災害と環境問題と地域の環境保護と資源開発利用の成功体験等について学習することが示されている。

4. 「郷土地理」領域

「郷土地理」領域では、「故郷の変化」、「故郷の発展」の2つの項目で構成されている。具体的に、「故郷の変化」では、故郷の地理的位置と特徴や主な地理的事物の変遷とその原因等につい

て学習することが示されている。他方、「故郷の発展」では、故郷の対外連携の現状と故郷の一層の改革開放の重要性や、故郷の発展計画と未来展望等について学習することが示されている。

総じて、第1表の通り、「地理」課程標準（中華人民共和国教育部，2011）では、「地球と地図」、「世界地理」、「中国地理」、「郷土地理」の4領域のうち、自然災害に関する内容は、「世界地理」領域の「海洋と陸地」と「地域の認識」、「中国地理」領域の「自然環境と天然資源」と「地域の認識」、「郷土地理」領域の「故郷の変化」に位置づけられていた。

Ⅲ. 「地理」課程標準準拠版教科書における自然災害に関する学習内容

現行版の「地理」課程標準に示された学習目標及び学習内容は、準拠版教科書にどのように反映されているのだろうか。ここでは、中華人民共和国教育部が管理し、人民教育出版社・教育部が発行する『地理』を分析対象とし、中学校の地理教育において自然災害に関する学習がどのように展開されているのかを明らかにする。分析対象に関して、『地理』を取り上げる理由は、中華人民共和国教育部が指定する唯一の教科書だからである。本稿では、人民教育出版社・教育部が発行する『地理』の最新版（2012年版）の教科書を分析対象とする。分析に際し、本稿では紙幅の都合により、第7～8学年のうち、第7学年のみを分析対象として、その特質を明らかにする。

1. 人民教育出版社・教育部発行『地理』（第7学年）の内容構成

第2表は、『地理』（第7学年）における学習内容（目次）を整理したものである。

第2表 人民教育出版社・教育部発行『地理』（第7学年）の内容構成

※自然災害に関する内容は網掛け

	【上冊】	【下冊】
第7学年	第一章 地球と地図	第六章 わたしたちの住む大陸アジア
	第1節 地球と地球儀	第1節 位置と範囲
	第2節 地球の動き	第2節 自然環境
	第3節 地図の読み	第七章 近隣の国や地域
	第4節 地形図の判読	第1節 日本 (pp.14-21) 【b】
	第二章 陸と海	第2節 東南アジア
	第1節 大陸と大洋	第3節 インド
	第2節 海陸の変遷 (pp.37-44) 【a】	第4節 ロシア
	第三章 天気と気候	第八章 東半球のその他の国と地域
	第1節 変わりやすい天気	第1節 中東
	第2節 気温の変化と分布	第2節 西ヨーロッパ
	第3節 降水量の変化と分布	第3節 サハラ以南のアフリカ
	第4節 世界の気候	第4節 オーストラリア
	第四章 住民と集落	第九章 西半球の国
	第1節 人口と人種	第1節 アメリカ
	第2節 世界の言語と宗教	第2節 ブラジル
	第3節 人類の居住地—集落	第十章 極地地域
第五章 開発と協力		

（樊傑主編，2012a 及び 2012b をもとに筆者作成）

第2表の通り、人民教育出版社・教育部発行の『地理』（第7学年）では、『上冊』及び『下冊』の両方に自然災害に関わる単元が設定されていた。『上冊』に関しては、第二章「陸と海」第2

節「海陸の変遷」において、自然災害について学習する構成となっていた（【a】は、第1表内の【a】に対応している）。『下册』に関しては、第七章「近隣の国や地域」第2節「日本」において、自然災害について学習する構成となっていた（【b】は、第1表内の【b】に対応している）。

それでは、具体的に上述した各単元において、自然災害に関する学習内容は、どのように構成されているのだろうか。

2. 【上册】第二章「陸と海」第2節「海陸の変遷」の内容構成

【上册】第二章「陸と海」第2節「海陸の変遷」の内容を整理したものが第3表である。第3表は、左から「主な学習内容」、「主な学習活動」、「主な資料」を示している。

第3表 第二章「陸と海」第2節「海陸の変遷」の内容構成

・主な学習内容	○主な学習活動	■主な資料
<p>(1) 滄海桑田</p> <ul style="list-style-type: none"> 現代の科学では、地殻の変動や水平線の昇降など、海陸の変動にも様々な原因があることがわかっている。 人間の活動は海と陸の変化をもたらせる。 	<p>○海陸変遷の原因を説明してみましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ヒマラヤで発見された海洋生物の化石【写真】 ■中国東部海底の古代の川筋遺跡【図】 ■オランダの干拓ダム【図】
<p>(2) 世界地図からのヒント</p> <ul style="list-style-type: none"> ドイツの科学者ウエーゲナーは大陸移動説を提唱した。 	<p>○大陸移動説を用いて地理現象を説明しましょう。</p> <p>○ウエーゲナーは何を示唆しましたか。</p> <p>○ウエーゲナーと大陸移動説から何がわかりますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■地球上の大陸の輪郭に関する議論【図】 ■単なる偶然ではないだろうか【図】 ■大陸の移動【図】 ■接合大陸のいくつかの古い地層の類似性【図】 ■アフリカと南アメリカにおけるウミウシとダチョウの分布状況【図】 ■地図からのヒント【文】
<p>(3) プレートの動き</p> <ul style="list-style-type: none"> 1960年代にプレートテクトニクスは大陸移動説に基づいて提唱された。 プレートテクトニクスは、岩石でできています地球の表層が一つではなく、プレートが合わさってできていますと考える。 全世界は大きく6つのプレートといくつかの小さなプレートに分けられており、プレートは絶えず動いている。 プレートとプレートの境界の地帯、地殻は比較的活発である。 世界の火山や地震も、プレートの境界に集中して分布している。 プレートの境界で、2つのプレートは張裂が発生し、裂け谷あるいは海洋を形成する。2つのプレートがぶつかり合い、陸地には山脈が形成される。 世界の多くの高く長い山脈は、主にプレートがぶつかって押し出された地域に分布している。 	<p>○なぜ、紅海は拡大しているのだろうか。</p> <p>○なぜ、地中海は縮小しているのだろうか。</p> <p>○ヒマラヤ山脈はどのようにしてできたのだろうか。</p> <p>○なぜ、エベレストは上昇し続けているのだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ウエーゲナー（1880-1930）は何を示唆しましたか【図】 ■6つのプレートの分布図【図】 ■世界の主な火山、地震帯、主な山系の分布【図】 ■紅海、地中海、ヒマラヤ山脈の成因図【図】 ■ヒマラヤ山脈の形成の概要（海から高山まで）【図】

<p>・世界の火山や地震は、環太平洋地域や地中海・ヒマラヤ地域など、地殻の活発なプレート境界に集中している。</p>		
--	--	--

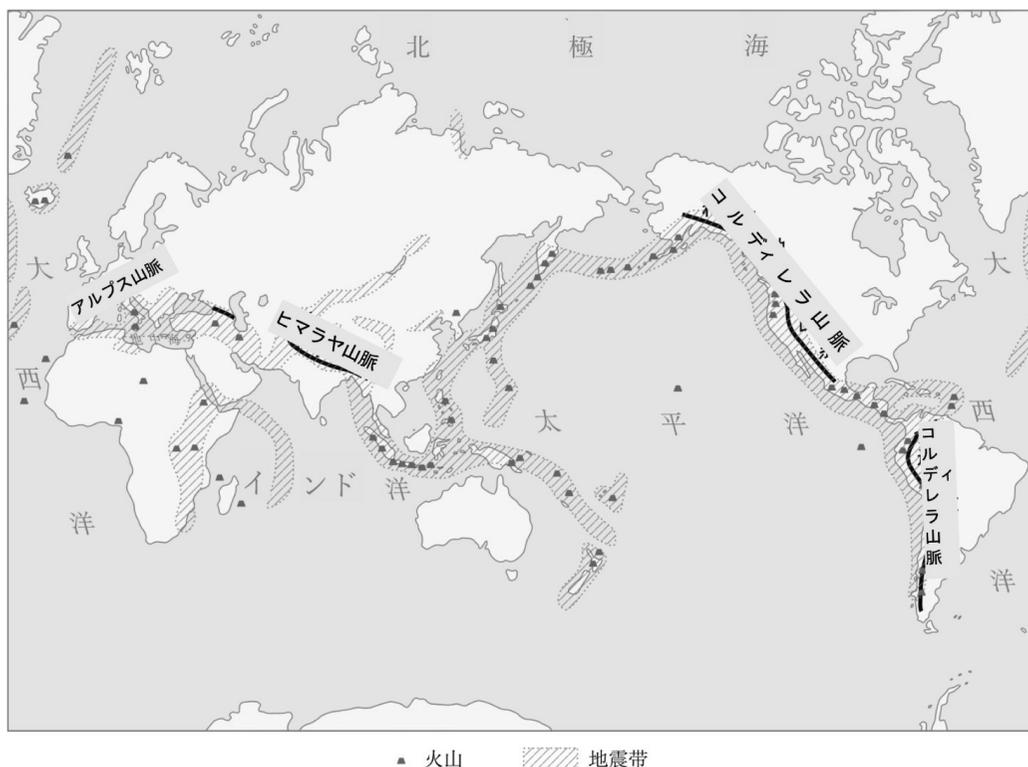
(樊傑主編, 2012a, pp.37-44 をもとに筆者作成)

第3表の通り,【上冊】第二章第2節「海陸の変遷」は,(1)滄海桑田,(2)世界図からのヒント,(3)プレートの動きの3項目(全8頁)で構成されている。

(1)滄海桑田(pp.37-38.)では,①“滄海桑田”という言葉の意味,②海陸の変動には様々な実例があること,③人間の活動と海陸の変化について学習する構成となっている。具体的に,①に関しては,“滄海桑田”という言葉の意味の検討を通して,海陸の変遷は古代から認識されていたことを把握させることが企図されている。また②に関しては,ヒマラヤ山脈で発見された海洋生物の化石を事例に,海陸変遷を理解させる構成となっている。さらに③に関しては,人間の活動は大陸の変化に影響を与えることができること等について,中国東部海底の古代の川筋遺跡やオランダの干拓ダムの図の読み取りを通して理解させることがめざされている。

(2)世界図からのヒント(pp.38-41.)では,ドイツの科学者ウエーゲナーの読物資料をはじめその他複数の資料の読解を通して,大陸移動説を理解させる構成となっている。具体的には,2億年前,地球上の大陸は相互につながった一つの大陸であり,その後,原始大陸はいくつかの大陸に分裂し,ゆっくりと移動して今日の七大陸四大洋の分布を形成していたという事実を捉えさせる展開となっている。

(3)プレートの動き(pp.41-44.)では,①プレートの動き,②プレートの移動と自然災害,③プレートの移動と地形の変化について学習する構成となっている。具体的に,①に関しては,1960年代にプレートテクトニクスは大陸移動説に基づいて提唱されたことを理解させることが企図されている。また②に関しては,6つのプレートの分布と世界の主な火山,地震帯,主な山系の分布の図(第1図)の読み取りを通して,プレートとプレートの境界の地帯,地殻は比較的活発であることや,これまでの地震発生地や火山の分布は,プレートの境界に集中して分布していることを理解させる構成となっている。さらに③に関しては,ヒマラヤ山脈の形成の概要図と紅海,地中海,ヒマラヤ山脈の成因図の二つのイラストを通して,海と山の形成過程とその要因を説明させることがめざされている。



第1図 世界の主な火山，地震帯，主な山系の分布の図

(樊傑主編，2012a, p.42の図をもとに筆者作成)

3. 【下冊】第七章「近隣の国や地域」第1節「日本」の内容構成

他方，【下冊】第七章「近隣の国や地域」第1節「日本」の内容を整理したものが第4表である。

第4表 【下冊】第七章「近隣の国や地域」第1節「日本」の内容構成

・主な学習内容	○主な学習活動	■主な資料
<p>(1) 火山や地震が多い島国</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本は太平洋北西部の島国である。 ・日本は北海道，本州，四国，九州の4つの大きな島とその近くのいくつかの小さな島からなっている。 ・日本の国土は南北に長く，海岸線は屈折し，多くの優良港湾がある。 ・日本は山地・丘陵が広がり，海沿いの平野が狭いである。 ・日本は火山が多く，分布が広いである。 ・富士山は最も有名な火山の一つであり，何度も噴火した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○プレートテクトニクス理論を用いて，日本に火山や地震が多い理由を説明しなさい。 ○地震に備え，日本ではどのような対策をとっていますか。 ○我が国（中国）も地震の多い国です。それを踏まえ，日本から何を学ぶべきですか。 	<ul style="list-style-type: none"> ■世界における日本の位置【図】 ■日本の地形【図】 ■富士山【写真】 ■温泉遊休【写真】 ■火山の噴火【写真】 ■大地震による津波【写真】 ■日本と近隣地域の火山・地震帯【図】 ■伝統的な民家【写真】 ■防災演習【写真】

<ul style="list-style-type: none"> ・日本は地震が頻繁に発生します国でもあり、人々が感じる地震は平均して一日に約4回ある。 ・日本は火山・地震が多く、人々の生活・生産に大きな影響を与えている。 ・富士山の最近の大噴火は1707年です。 ・火山分布地域に温泉が多いである。 ・2011年3月11日、東日本沖でマグニチュード9.0の大地震が発生した。それにより大きな津波が発生し、甚大な人命被害と経済的な損失をもたらされた。 ・日本の伝統的な民家では、地震による人命被害を軽減するために、より軽量の建築材料が多く使われている。 ・毎年9月1日には、日本全国で大規模な防災訓練が行われている。 		
<p>(2) 世界に展開する工業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の工業は高度に発達しており、多くの工業製品が国外に輸出されている。 ・1980年代、日本の工業発展は様々な問題に直面した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日本の工業地帯の分布の特徴はどのようなものですか。 ○日本の工業が太平洋沿岸と瀬戸内海沿岸に集中している主な理由を説明しなさい。 	<ul style="list-style-type: none"> ■横浜港には輸出を待つ車が並んでいる【写真】 ■日本の主要な工業原料の供給源【図】 ■日本の主要工業製品の輸出【図】 ■2010年における日本の主要投資国・地域（出典：日本貿易振興会）【図】 ■日本の太平洋沿岸工業帯【図】
<p>(3) 東西互換の文化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の文化は、濃厚な大和民族の伝統の色があり、また強い西洋の息吹があり、それは東西文化の互換性の典型である。 ・中国と日本の文化交流は歴史が長いである。 	<ul style="list-style-type: none"> ○実例と結びつけ、中日文化の融合を感じますか。 ○もし、あなたが中日文化の融合について、他の事例を挙げられるならば、どんなことがありますか。みんなに説明してみましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ■和服は「洋」服と並存します【写真】 ■和食は「洋」ファストフードと並存します【写真】 ■和屋は「洋」房と並存します【写真】 ■京都御所【写真】

（樊傑主編，2012b, pp.14-21 をもとに筆者作成）

第4表の通り、第七章第1節「日本」は、(1)火山や地震が多い島国、(2)世界に展開する工業、(3)東西互換の文化の3項目（全8頁）で構成されている。タイトルが示す通り、自然災害に関わる学習内容は、(1)のみであるため、(2)と(3)の分析は省略する。

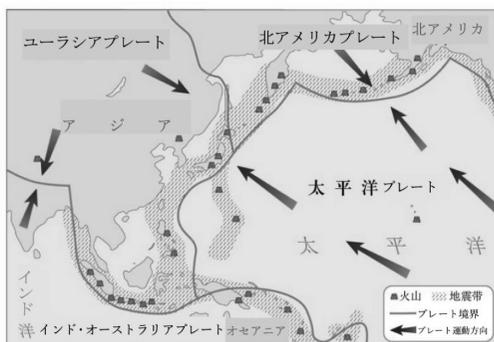
(1)火山や地震が多い島国（pp.14-16.）では、①日本の地理環境、②日本の自然災害、③日本の防災対策について学習する構成となっている。具体的に、①に関しては、世界地図と日本地図の両面から概観することを通して、日本は太平洋北西部の島国であり、北海道、本州、四国、九州の4つの大きな島とその近くのいくつかの小さな島からなっていることを理解させることが構成となっている。また②に関しては、日本は地震の発生頻度（それに伴う津波の発生を含む）や火山の噴火が多い国であることについて、写真や文章を通して理解させる構成となっている。さらに③に関しては、下記の第2図に示す「学習活動」に示してある問い（「地震に備え、日本

ではどのような対策をとっていますか」や「我が国（中国）も地震の多い国です。それを踏まえ、日本から何を学ぶべきですか」について考えさせることを通して、日本の防災・減災対策を理解させる構成となっている。



学習活動

日本で火山と地震が多く発生する原因と防災・減災対策を図で説明します



【図 7.7】日本と近隣地域の火山・地震帯

↓ 日本の伝統的な民家では、地震による人命被害を軽減するために、より軽量の建築材料が多く使われています。



【図 7.8】伝統的な民家

↓ 毎年9月1日には、日本全国で大規模な防災訓練が行われています。小学生たちが地震に備える訓練をしています。



【図 7.9】防災演習

1. プレートテクトニクス理論を用いて、日本に火山や地震が多い理由を説明しなさい。
2. 地震に備え、日本ではどのような対策をとっていますか。
3. 我が国（中国）も地震の多い国です。それを踏まえ、日本から何を学ぶべきですか。

第2図 第1節「日本」における学習活動

(樊傑主編, 2012b, p.16 をもとに筆者作成)

IV. 結論

本研究の目的は、中国の中学校地理教育における自然災害に関する学習内容の特質について、義務教育中学「地理」課程標準及び準拠版教科書（第7学年）を事例に明らかにすることであった。分析の結果、「地理」課程標準の【a】に関する内容については、準拠版教科書では、紅海が拡大している理由や、地中海が縮小している理由、ヒマラヤ山脈の形成過程や、エベレストが上昇し続けている理由等について様々な資料をもとに考えさせることを通して、プレートの動きやそれによってもたらされる影響等、地理的環境と自然災害との関係性を理解させる構成となっていた。一方「地理」課程標準の【b】に関する内容については、準拠版教科書では、隣国日本が地震の発生頻度（それに伴う津波の発生を含む）や火山の噴火が多い国であることを踏まえ、その理由や、地震の被害を抑えるための対策について考えさせたり、日本の防災・減災対策から中国が学ぶべき点について議論したりする構成となっていた。

今後は、本研究の成果を踏まえ、本稿では紙幅の都合により明らかにできなかった第8学年の内容（「地理」課程標準の【c】～【e】に関する内容）を分析するとともに、関連して高等学校段階における自然災害に関する学習内容の特質も明らかにしていくことが課題である。

【注】

1) 課程標準とは、中国教育部が基礎教育課程に対する最低の規範と基準（学習目標、学習内容、評価等）を示す大綱的な文書で、日本における学習指導要領にあたるものである。

【引用・参考文献】

王禹軻・佐藤克士（2022）：中華人民共和国の初等教育における自然災害に関する学習内容の分析－義務教育小学「科学」課程標準及び準拠版教科書を事例として－，武蔵野教育學論集，第12号，pp.81-93.

赫連茹玉・桑原敏典（2021）：多文化共生の視点から見た中国の中等社会科系教科書の特質－中学校地理及び歴史教科書の記述分析を通して－，岡山大学教師教育開発センター紀要，第11号，pp.133-147.

郭明（2015）：ESDの視点を取り入れた中国の高校地理教科書の分析－人民教育出版社の必修教科書を中心に－，新地理，第63巻第2号，pp.16-32.

佐藤克士・王禹軻（2022）：中華人民共和国の初等教育における自然災害に関する学習内容の分析（2）－義務教育小学「品德と社会（生活）」課程標準及び準拠版教科書を事例として－，創価大学教育学論集，第74号，pp.59-76.

樊傑主編（2012a）：『地理（七年級上冊）』人民教育出版社・教育部，95p.

樊傑主編（2012b）：『地理（七年級下冊）』人民教育出版社・教育部，102p.

中華人民共和国教育部（2011）：『義務教育地理課程標準』北京師範大学出版社，pp.7-18.

- 傅嘉琪 (2019) : 高等学校地理基準に関する日中比較研究, 兵庫教育大学地理学研究室研究報告, 第24巻, pp.36-45.
- 南春英 (2019) : 中国の中学校地理教科書における日本に関する記述の変遷, 人文地理, 第71巻第4号, pp.417-437.
- 季碩・池俊介 (2015) : 中国の地理教育における観光学習, 新地理, 第63巻第3号, pp.33-45.
- 呂光暁 (2018) : 第14章 中華人民共和国の初等社会科教育, 井田仁康・唐木清志編著『MINARVA はじめて学ぶ教科教育③ 初等社会科教育』ミネルヴァ書房, pp.139-148.